



やろ舞い大祭
20周年

テレどまつり
もん勝ち大賞
受賞

みんなでやるまい
～大口町のみんなとねぶらがはー～

第23回にっぽんど真ん中祭り

8月26日(木)～29日(日)

創意工夫で
新たな境地を

大口町を代表するお祭りのひとつである「やろ舞い大祭」。毎年9月の第2土曜日に開催される踊りの祭りで、小さなかわいらしい子どもから元気なベテランの踊り手までを含む約50チームが参加。すっかり大口町の夏の風物詩として定着しています。近年は、全国有数の踊りの祭りの一つに数えられ、愛知県の南の端や他県からの参加者もひそつて集まる行事に成長しました。

そんなやろ舞い大祭が、今年で20周年を迎えるました。残念ながら去年に引き続き今年もコロナ禍のためやむなく中止に。これまで雨で中止になつた」とが20年の中で一度だけありましたが、今回のような終焉するのかわからない事情で開催を断念することは誰にも予想できなかつたことでした。なにしろ、やろ舞い大祭といえば、ステージに立つ踊り手たちはもちろん、観客も一体となって掛け声を掛け合い汗を飛ばしながら躍動するのがお約束。また、会場内の「食おまい横丁」では、グルメやグッズの買い物を楽しむブースがずつと並び、30000人もの人出



総踊り曲リユーチル！

で賑わうのです。昨年に引き続き、今年も泣く泣く断念しましたが、イベントの性質上、この先もコロナ禍が終息するまで完全な形での再開は絶望的と思われました。

やろ舞い大祭の起源は、平成9年に結成された「大口町まつり創生研究会」。町全体で盛り上がるお祭りを作ろうと議論を重ね、平成12年に前身である「やろ舞い祭」を立ち上げ、その後、平成14年にやろ舞い大祭の第1回が開催されました。そして、祭りが100年先まで続いていくようになると運営も実行委員会形式に。運営団体は平成18年に「やろ舞いプロジェクト」として大口町のNPO団体に登録されました。

第1回から参加し、今はプロジェクトの中 心メンバ ーとして活躍する大森正太郎さん（35）は、20年間 ろ舞い大祭に並々ならぬ想いを注い できた1人。よきこい踊りとの出会い は、大口中学校3年生の時によき こいチ ーム「さくら連」が中学校に 踊りを教えてくれたときのこと です。みんなで一つのものを作り上 げる魅力にすっかり引き込まれ、そ の年の夏の商工会の「ふれあいフェ



2019年のやろ舞い大祭

「ステイバル」で初めて一緒にステージに立ちました。高校1年生のとき「正式」にチーム「あわせ」の一員でした。それ以来、やろ舞い大祭に毎年参加しています。第10回からの総踊りの司会進行をまかされるようになり、それがきっかけで運営にも携わるようになりました。

昨年中止が決まり、「何か代わりに」できることはないか?」とプロジェクトメンバーで話し合った末、翌年を迎える20周年の記念に総踊りの曲をリユースすることに。コロナ禍で実際に人が集まることが不可能な中でも、できるだけ多くの人に関わって参加してもらおうことに。だから、「みんなでやろ舞い!」という企画名でホームページ、ツイッター、インスタグラム、フェイスブックなどSNSを駆使して新しい歌詞を募集しました。歌詞の内容でこだわったのは、「大口町

の良さが伝わること」、そして「子どもにもわかりやすいこと」。去年の秋に募集をかけたところ、全国津々浦々の方から、延べ120点ほどの応募がありました。

歌詞が決まったところで、メロディーはよきこの曲をはじめ、多種多様な曲を手がけたプロの作曲家、石田一郎さんに、振り付けは全国各地で踊りの振り付けを手がけ、かつてはやろ舞い大祭のステージで一緒に踊っていた佐藤大地さんに依頼しました。とりわけ大口町の未来を担う子どもに好きになってほしいという願いが込められ、楽しくわかりやすく、リズムにのりやすい素敵な曲に仕上がりました。曲名も10月末に決定。総踊りはYouTubeで公開しているので、大口町の皆さんで応援してください!!

プロモーション映像に挑戦!

ところが残念なことに、この総踊り曲を披露するはずだった20周年の今年度もコロナ禍



大森正太郎さん

が収まらず開催中止)。再び準備期間があるまる一日になつたため、それなりほど、踊りのプロモーション映像を制作しようという流れに。今年度は毎年8月に名古屋で開催される大規模なよさじまつり「にっぽんご真ん中祭り(通称じまつり)」が、現地参加とオンライン参加のハイブリッドによる、その名も「テレビまつり」として開催されることになつたため、やろ舞いも満を持してオンラインの部で映像参加することにしました。

「実は、動画編集は初めてで、まずは動画編集ソフトを購入するところからのスタートでした。いちから勉強して、毎日夜中まで頑張りましたよ」と大森さん。とにかくたくさんの人たちに関わってもらつて、みんなで力を合わせて作り上げたものにしたいとの想い



歴代ポスター



総踊り新曲

さあ 今からはじめよう！ 両手広げてやろ舞い！

準備はオッケー！ 最高！

今日はお祭り たまには騒ごうぜ！

春には 桃色の花びらが 五条川染める
出会いと分かれ くり返して 涙と笑い声
いつものその匂い 「ただいま」が言える この故郷は
少し おしゃれして歩いた道 今も変わらない 町並み

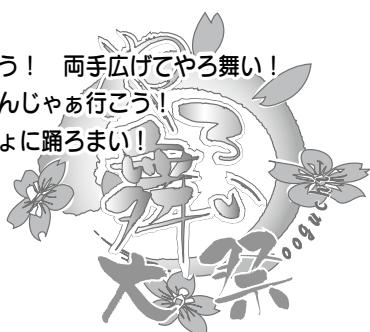
*¹
でら いい町だもんて こしに手を当て踊るだがね
あなたのHAPPYもみつかるよ！
大口町 そりゃあ素敵な町だで♪

*²
愛知県だよ 大口町！ Big と Mouth で大口町！
じいちゃん ばあちゃん こどもも おとなも
そろって でら大口だがね♪
I LOVE 大口♥ We LOVE 大口♥
だもんでおれたち バンバンザイ！
ケッタで行くだか!? なあ～んかあるかも 大口町
いつものこの時間 鳴りひびく お屋のサイレン
少し照れくさいけど あの人もさそって一緒に踊ろう

※1 くりかえし

さあ まだまだ続けよう！ 両手広げてやろ舞い！
準備はオッケー！ ほんじゃあ行こう！
タリラリラ♪ いっしょに踊ろまい！

※1 くりかえし
※2 くりかえし



から、曲全体をいろいろなチームの踊りでリレー方式でつないで完成させることとしました。コロナ対策のため、撮影場所は11か所に分散して撮影隊が出向いて撮影することに。撮影は夏真っ盛りの暑い時期に堀尾跡公園や小口城址公園など町内各所でおこなわれ、最終的に14団体、延べ160人余りの参加により、心と心でつなぐ温かくフレッシュな動画に仕上りました。「今まで関わりのなかつた団体さんともつながる」ことができたのが、今回の収穫です。「この縁を大切にして次につなげていきたい」と大森さん。

やろ舞いチームは、「NO21 日本ど真ん中祭り」で、400もの参加チームの中から見事「テレビまつり楽しんだもん勝ち大賞」を受賞しました。今回の参加で、実際の祭りの準備運営とは違った形での活動を生み出したやろ舞いプロジェクト。団体の「あり方」について立ち止まって考える機会にもなりました。大森さんは「『誰でも参加でき、大口町全体で盛り上がるふるさとの祭りを10年先まで』という目標を掲げて今まで走り続けてきましたが、20年の節目を迎えて、これ

からの新たな方についても考えるときがきたと思います。奇しくもこの時に遭遇し、ただ踊っているだけの行事では遅かれ早かれこの先に限界が訪れるのではないかと感じています。100の年続いていくためには若い世代への継承も課題です。この先は、祭りを見事に継承していくことだけにこだわらず、いろいろなことにチャレンジすることが必要。その足掛かりが今回の新曲作りや動画作りで得られたようになります。何をするかはこれからですが、やろ舞い大祭の強化につながるような新しい活動を開拓していくたい。今回この縁ができた団体の皆さんのが活動からもヒントを得たいと思います」と力強く決意を語ってくれました。ピンチに負けない柔軟な心意気もゼひつないでいってほしいですね。これから時代にしなやかに寄り添っていく「新生やろ舞い」に注目していきたいと思います。